

## メドトロニック、アジアおよびグローバル事業 統括本部をオープン 新工場の設立を発表

世界的な大手医療機器メーカー、メドトロニック(Medtronic)は、アジアおよびグローバル事業の統括本部をシンガポールにオープンしました。

また同時に、今後アジアで需要増大が予想される心臓ペースメーカーの新たな製造施設を、東部のチャンギ・サウス地区(Changi South)に設立することも発表しました。

メドトロニックは、世界で初めて電池式体外型心臓ペースメーカーを開発した創業者が、1949年に米国で設立した医療機器のリーディングカンパニーです。新工場には約50億円(8,000万SGD)を投じ、メドトロニックの高い品質・安全基準を満たす最先端技術を導入し、不整脈などの心臓疾患の治療に使われる機器を製造します。稼働時期は2011年初めを予定しています。

メドトロニック・インターナショナルのJean-Luc Butel 上級副社長兼事業本部長(Executive Vice-President and Group President, Medtronic International)は、「アジアでは医療機器への需要が高まることから、新工場設立はメドトロニックにとって新たなニーズを満たす好機となる。アジアおよびグローバル事業統括本部をシンガポールに設けることで、成長を糧とし、より多くの患者や顧客にサービスを提供していこうと思う」と述べています。



## 米 3M、薬剤送達システムの研究施設を設立



オープニング式典には、シンガポールのリム・フンキャン通産相(中央)、米3M DDS Division 副社長・本部長のジム・ボーガン氏(左)、3M取締役会長・社長・CEOのジョージ・バックレー氏らが出席しました

米3Mのドラッグデリバリーシステム部門(DDS Division)は、アジア・太平洋地域で初となる薬剤送達システム(DDS)の受託研究開発施設を、北部イシュン地区(Yishun)にオープンしました。製薬会社の競合力強化に貢献するドラッグデリバリー技術と、グローバルな規制知識を活用し、アジア地域で開発された独自製剤のフィージビリティ(実現可能性)調査、開発、製造・品質保証を行います。

3M DDS Divisionのジム・ボーガン(Jim Vaughan)副社長兼本部長(Vice President and General Manager)は、「シンガポールでのプレゼンスを高めることで、アジア・太平洋地域の顧客にグローバルにもローカルにも通用する製品開発サービスを提供することができる。シンガポールオフィスは域内の規制要件を熟知しており、顧客のニーズに迅速に対応することができる」と述べています。

約6,000平方メートルの敷地には、フィージビリティ調査とプロセス開発を行う2つのラボを設置。同社の代表的な製品であるドライパウダー吸入器、加圧式定量噴霧吸入剤、微細構造の経皮吸収剤の性能を向上させる研究を行います。